

2016年度 日本演劇学会全国大会予告

ポスト・グローバリゼーション時代の日本演劇

- ◆日 程：2016年7月1日（金）前夜祭
7月2日（土）～3日（日）研究発表・シンポジウム
- ◆会 場：大阪大学 豊中キャンパス（〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5）

現在、グローバリゼーションの潮流はいまだ収まる兆しを見せてはいません。他方で領土問題や人種問題など民族間の抗争や覇権を巡る争いもまた一向に出口が見えず、世界はますます混沌としています。現代がポスト・グローバリゼーションの時代だとすれば、世界はいったいどこに向かっているのでしょうか。現代世界を反映しているはずの日本演劇は、そして演劇研究は、このような時代にあってどのような姿を現し、どこを目指していくのでしょうか。

日本演劇は長いその歴史の中でもとりわけ戦後70年間、日本の社会文化的文脈の中で個性的で独自の相貌を育んできました。それは世界演劇の中で歓迎され、評価され、新しい演劇創造の源泉として寄与してきました。しかし近年急激に進んだ地球規模の意識は、「国家」や「地域」の壁と同様に演劇の境界を消失しようとしているのでしょうか。それともその流れに抗ってあくまでも固有の美学を追求し続けようとするのでしょうか。

もっともこのようなことは今日だけの問題ではありません。遠くは奈良時代から大陸や朝鮮半島の演劇文化を受け入れてきた日本は、つねに外の演劇を受け入れてきたと言っても過言ではありません。それがもっとも活発になるのが20世紀以降のことなのでしょう。その要因には、近代化、戦争、亡命、植民地主義、経済停滞、冷戦、反近代主義、バブル経済など様々なものがありました。そして2000年代になり、グローバルで画一的な文化とローカルで固有な文化の混沌の中で、日本演劇は何を学び、どこへ向かおうとしているのでしょうか。

日本演劇の研究と日本の演劇研究もまたグローバリゼーションの波にさらされて来ました。かつてないほどに日本以外の国々で日本演劇の研究が行われ、日本演劇についての出版も行われています。日本の演劇研究は日本ばかりではなく、早晩、世界の研究との網の中で進めざるを得なくなるのではないのでしょうか。それは日本以外の国で実に多様な日本伝統演劇のグループが、創作や上演を行っている状況と平行関係があるのではないのでしょうか。

日本演劇学会では、2003年に「世界の中の日本演劇」をテーマに全国大会（関西外国語大学）を開催しました。極めて多彩な日本演劇の実相に肉薄しようとしたあの大会から一巡りし、さらに混沌の度合いを増した現代世界の中で、日本演劇と日本の演劇研究が直面する問題を明らかにし、日本演劇の未来について討論したいと思います。ふるってご参加ください。

また、以上の大会テーマでの研究発表を募集します。みなさまのご応募をお待ちしています。

2016年度日本演劇学会大会実行委員会
大阪大学文学研究科演劇学研究室

2016年度 日本演劇学会全国大会 発表募集要項

【発表題材例】

グローバル化と演劇；メガミュージカルの日本受容／モダンドラマの「普遍性」／海外劇団の来日公演／インターネット時代の日本演劇／海外資本と日本演劇
ローカル化と演劇；地域演劇の現在／ユネスコ世界無形文化遺産の課題／翻訳劇における複式夢幻的演出／農村舞台と「地域おこし」／「演劇史」記述と地域演劇
世界の中の日本演劇；世界の日本演劇研究／70年代日本アングラ演劇の欧米受容／暗黒舞踏と現代西欧演劇／歌舞伎の海外公演／アジア・アメリカンの演劇／世界の日本演劇研究
戦争と植民地主義；日中戦争と日本演劇／冷戦期アジア政策と海外公演／朝鮮戦争と日本演劇／戦中期国策劇／戦前台湾における日本演劇／在日韓国人の演劇
文化交流としての日本演劇；歌舞伎の海外公演／新劇の訪中公演／日本の文化政策と共同制作／移民の日本演劇
日本演劇とアイデンティティ；米国における日本人移民の演劇／近代沖縄演劇と日本／80年代日本小劇場と若者文化
日本演劇の美学；西欧演劇における日本伝統演劇の摂取／能の身体性と「日本人」アイデンティティ／90年代「静かな演劇」のドラマツルギー
日本演劇の未来；演劇教育と大学教育／海外演劇大学における日本演劇制作／クール・ジャパンと日本演劇／震災の演劇／現代日本の実験演劇 その他多数

*大会テーマ以外の研究発表も併せて募集いたします。

【応募方法】

下記の①～⑥の情報を A4 一枚にまとめ、E-mail 添付（件名：2016 日本演劇学会大会応募）、または郵送にてご応募ください。

①発表またはパネル題目 ②発表者名（ふりがな） ③所属・身分（学年） ④ご連絡用の住所、電話番号、E-mail アドレス ⑤使用予定機材 ⑥発表要旨 600 字程度

【応募締め切り】

2016年2月29日（月）（必着）

*発表時間は、発表 25 分・質疑応答 10 分、パネル 2 時間を予定しています。

*ご発表の採否は、追ってご連絡いたします。

【お問い合わせ・送り先】

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

大阪大学大学院文学研究科 演劇学研究室 中尾薫宛

E-mail: knakao@let.osaka-u.ac.jp, TEL: 06-6850-5125 ※不在の場合があります。